

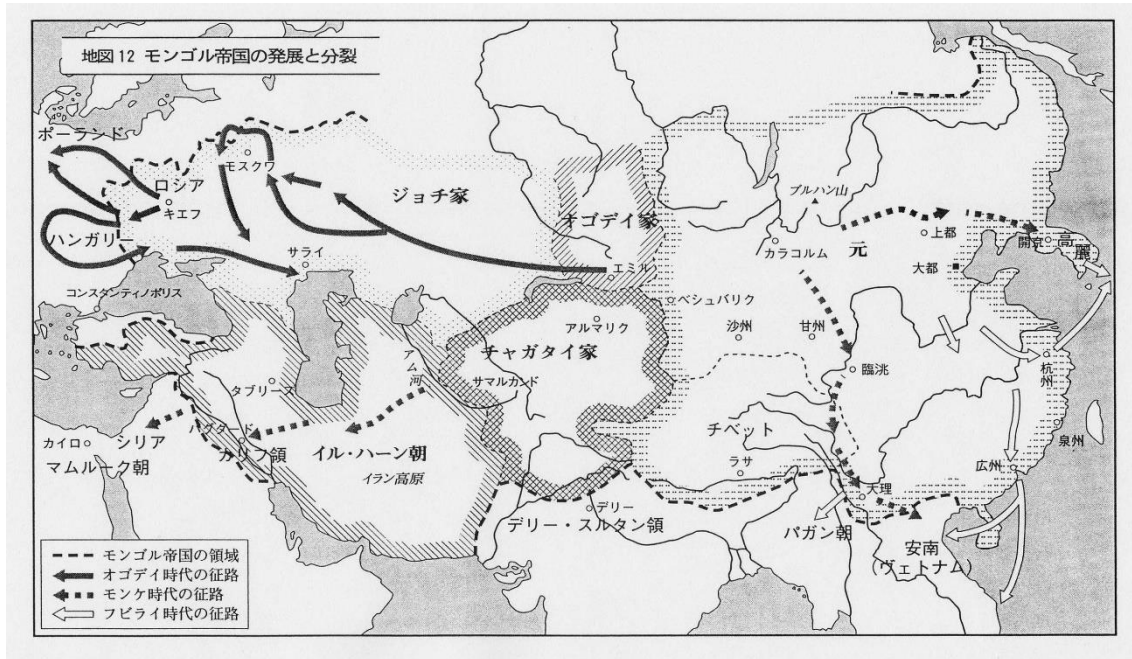
モンゴルから見た世界史

～日本人のための世界史～

2019年9月20日

宮脇 淳子（公益財団法人東洋文庫研究員）

1 モンゴル帝国の最大版図（チンギス・ハーンの孫の代に各家の地方政権に分裂）



地図：宮脇淳子『モンゴルの歴史 遊牧民の誕生からモンゴル国まで』（刀水書房, 2002年）

2 「モンゴル帝国から世界史が始まった」という理由（岡田英弘『世界史の誕生』ちくま文庫）

- 1) 13世紀のモンゴル帝国は、東のシナ世界と西の地中海世界を結ぶ草原の道を支配し、ユーラシア大陸に住むすべての人びとを一つに結びつけて、世界史の舞台を準備した。
- 2) それまで存在した政権は一度ご破算になり、改めてモンゴル帝国から新しい国々が分かれ、それがもとになって中国やロシアを初め、現代のアジアと東ヨーロッパの諸国が生まれた。
- 3) 北シナで誕生していた為替などの資本主義経済が地中海世界へ伝わり現代の幕を開けた。
- 4) モンゴル帝国がユーラシア大陸の陸上貿易の利権を独占し、外側に取り残された日本人と西ヨーロッパ人が海上貿易に進出して、歴史の主役が大陸帝国から海洋帝国へと替わった。

3 日本の世界史に筋道がないのは、戦前の西洋史と東洋史を合体しただけだから

日本で教えられている世界史という教科は、1945年の第二次世界大戦敗戦後、日本がGHQに占領統治されていた時代に、戦前の西洋史と東洋史を合体させてできたものである。

明治時代の日本で、ドイツ人リースが帝国大学（東京大学の前身）に史学科を開設したのが西洋史になり、そのあと国史と東洋史が生まれた。日本の西洋史が、仏・独・英国という当時の世界の三大強国の歴史を重んずるのは、天命が近東からギリシア、ローマ、ゲルマンを経て英・独・仏に伝わったと考えるため、これはシナ史の正統の観念である。戦後、西洋史と東洋史が合体して世界史になったが、大学に世界史を教える学科はなく、西洋史と東洋史の卒業生が世界史教科書を分担して執筆してきた。しかも世界史に日本史は含まれない。

4 そもそも歴史とは何か、世界中どこにでも歴史があるわけではない

人間が住んでいた場所だったらどこでも歴史が書かれたわけではない。狭義の歴史の定義は、誰が、いつ、何をして、その結果、このようなことになった、ということをお語るもの。だから歴史が書かれるためには、時間が過去から現在に流れているという観念と、年月日が計測されること、文字と、過去の出来事の因果関係を語る思想の四つの条件が必要になる。

5 いま世界に存在する国民国家の歴史を集めても、世界史にはならない

いま現在、国連に加盟している国は 193 あるが、戦前、独立国は六十数カ国しかなかった。つまり、世界の国家の大半は誕生してまだ何十年かしかたっていない。「国民国家（ネーション・ステイト）」は 18 世紀末のアメリカ独立とフランス革命で誕生した国家形態で、国境内の国民は平等の権利があり共通の歴史と国語を持っている、という建前である。百年前には国はなかったとしても、国境の外側は異民族であり敵で、何千年も前から私たちの祖先は仲良くこの場所に住んでいた、というのが国民国家史で、これを集めても世界史にはならない。

6 西洋史のもとになった地中海＝西ヨーロッパ文明は、変化と対決こそが歴史と考える

地球上で最初の歴史書は、ヘーロドトスが BC5 世紀にギリシア語で書いた『ヒストリアイ』である。ヘーロドトスは黒海とエーゲ海を結ぶ海峡の東側がアジア、西側がヨーロッパで、アジアとヨーロッパの間で積み重なった恨みがペルシア軍のギリシア遠征の原因だと解釈した。最初の歴史の枠組みに沿い、地中海文明では、一、世界は変化するものであり、その変化を語るのが歴史である。二、世界の変化は政治勢力の対立・抗争によって起こる。三、ヨーロッパとアジアは永遠に対立する二つの勢力である、という考え方で歴史が書かれることになった。

7 東洋史のもとになったのは、天が命ずる「正統」の観念

前漢の武帝に仕えた太史令（^{たいしれい}宮廷占星術師長）の司馬遷（^{しばせん}）が BC1 世紀に書いた『史記』がシナ最初の歴史書で、それまで「史」は記録係の意味だった。黄帝（^{こうてい}）に始まる五人の神話上の君主から武帝につながる『史記』は、皇帝が「天下」（世界）を統治する権限は「天命」（最高神の命令）によって与えられたもので、天命が伝わる順序を「正統」と呼ぶ。天命の正統に変化があっては皇帝の権力は維持できないから、このあと『明史』まで、歴代の王朝を継承した王朝によって書かれた二十四の「正史」は、現実に変化があっても無視して叙述しないことになった。

8 国史＝日本史は西洋史とも東洋史とも対話が無く、日本は世界の一部ではないようだ

日本史は、『日本書紀』（8 世紀）から『大日本史』（水戸藩、17～20 世紀初め）まで、シナ型の正史の枠組みに沿って書かれた。史実は、663 年の白村江（^{はくそんこう}）の敗戦によって朝鮮半島から追い出された倭人が、渡来人と協力して、668 年天智天皇（^{てんち}）が即位し、日本国が誕生した。『日本書紀』は、日本文明は最初からシナとは無関係に自立的に発展してきたと主張する。『記紀』の日本神話が、日本列島だけが日本で、天皇は天下った神様の子孫であるとしたため、今でも日本人は、台湾や朝鮮を日本にした戦前の大日本帝国を、外国への侵略と言われて納得するばかりか、沖縄や北海道が日本であることまで後ろめたく思われるのである。